



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン

ぼん子画

(530-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3マツイ・ビル 201 TEL: 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail: daimao@travelmitra.jp)

「インド・大菩提寺物語」②

オリンピックは何とか終わったが、新型コロナ・ウイルス災禍は残念ながら終息していない。それどころか、感染者は増えるばかりである。そうこうするうちに、中国が日本を核攻撃する準備あり、という脅迫めいた不確かなニュースが流れてきた。

また、アフガニスタンの政権がタリバンによって、あっという間に倒れた。このニュースを耳にしたとき、とっさに人道支援に取り組んできた中村哲医師（NGO ペシャワール会）のことが脳裏に浮かんだ。中村医師は2019年12月4日アフガニスタンで武装勢力の銃撃で亡くなった。中村医師が建設した水路や活動はどうなるのだろうか、と思ったのである。

ずいぶん昔だが、中村医師の集会に誘われたことがあった。そのときは出席できなかったが、参加者は十名に満たなかったと後日に聞いた。あれから、あの危険なアフガニスタンで長年草の根の活動をしてこられた。その根が絶たれるのだろうか。

政権を倒したのはタリバンという勢力である。外務省のホームページによると「謎に包まれた最高指導者ムッラー・ムハンマド・オマル師が率いる神学生を中心とする集団」で、「パキスタンの宗教学校（マドラサ）で教育を受けた神学生を中心として結成された」と言われている。「厳格なイスラム法解釈及び適用を行うことから、西側諸国及び国際機関との摩擦」が絶えないとある。

正直に言うと、イスラム教はどうもわが肌に合わない。もちろんイスラム教徒の友人知人もいるのだが、それは人間としてのお付き合いである。

困るのは、堅物の神学生である。彼らは神さま一番、純粹といえは「純粹」である。たしかに神さまは超純粹かもしれないが、それを仰ぎ見る者は純粹ではない。煩惱（自己欲望）をもった人間にすぎない。その煩惱をもった頭でなにかと自己判断して、他者に正義を振りかざすと摩擦が生じることになる。それを世間では「原理主義者」と呼ぶ。

この原理主義は、なにもイスラム教に限ったことではない。戦前の軍部にも、神風原理主義があった。ヒンドゥー教にも原理主義がある。いや、仏教にも原理主義がある。（これについては後述する）

ブッダは、この原理主義、かたよる行為、偏る思考、かたよる心のどうしようもない人間の業からの離脱（解脱）を求めた。そのために飲まず食わずの苦行をした。

それでも解答（解脱）を得ることができなかった。苦行こそ偏った行為であったからであ

る。

それで菩提樹の下で座っていると、夜明けに光明に打たれて悟ったと云われている。これは不思議な体験である。

これを神秘体験だと思う読者は多いとおもう。この神秘体験をうまく利用したのが麻原彰晃である。

ところが、ある学者は言う。

考えて、考えて、全神経を集中して、観察を繰り返して、その結果得たものが悟りであるという。

座禅や瞑想を繰り返す効用は、生理的な問題を解決する程度のものである。例えば、ヨーガ体操をすれば身体爽快、あと気分晴ばれ。座禅や瞑想をすれば、あとスッキリ。断食をすれば、若干苦痛だが、あと腸内快便。

それじゃ、ヨーガ瞑想座禅苦行も必要なく、考えるだけでよいではないか、という意見もでてくる。世の中には素人ながら勉強好きな人がいるが、その人に「苦」はないかという、そうでもない。

わが輩が思うに、ブッダも前正覚山(ドゥンケ・シュリー)で苦行したから良かった。その苦行(座禅と断食と思考と観察)を止めて、河の近く休んでいるとスジャータから乳粥を供養してもらって良かった。(美味しかった)。菩提樹の下でゆっくり静養、瞑想、思索していたら悟りに至った、と思う。すべての組み合わせが良かった。

とするなら、これは不思議な組み合わせ体験である。ブッダも「ほんとうかしら？」と思い、次の七つの聖処(大菩提寺内)で確認作業をしている。

- (1) 聖菩提樹下(アシュヴァッタ樹)：人生の苦からの開放7日間
 - (2) アニメーシャ・ローチャナ：悟りをえた場所を凝視して7日間
 - (3) チャンカマナ：歩行瞑想で7日間
 - (4) ラトナグラハ：宝の家で坐ること7日間
 - (5) アジャパーラ(羊牧)榕樹：榕樹下で坐ること7日間
 - (6) ムチャリンド蓮池：ムチャリンド樹下で坐ること7日間。
 - (7) ラージャヤタナ(王処)樹：ヤタナ樹下で坐ること7日間。
- (各聖処の解説は次号に)

恐れ多くも、最近のわが輩のサトリ(?)体験を述べておく。

日がな一日パソコンに向かっているが、三時間ほどするとわが輩の頭脳ははたらいてくれない。もともと思考能力の低いものが、さらに低くなる。それで自宅に帰りビデオに撮った吉本新喜劇をぼうーと眺めてバカ笑い、眠る。次の朝、ヨーガをしていると、考えもしないのに、なにかしらのヒントが湧き上がってくることもある。(これもサトリの一種か?)

ブッダは明けの明星(4~5時頃)に打たれて悟った。空海も明けの明星が体内に入って悟った、と云われている。

わが輩が悟りに至らないのは、そのころ安眠というのか、熟睡というのか、惰眠を食っているからなのだろう。やはり、「早起きはサトリの徳!」である。